

個人投資家さま向け会社説明会

 遠州トラック

2024年9月6日
遠州トラック株式会社
(東証スタンダード市場 9057)

目次

I. 会社概要	3	V. 中期経営計画	25
I - 1. 会社概要	4	V - 1. 中期経営計画（概要）	26
I - 2. 会社沿革	5	V - 2. 中期経営計画（定量目標）	28
I - 3. 経営理念（ミッション・ビジョン・バリュー）	6	VI. 業績の概要	32
I - 4. データでみる遠州トラック	7	VI - 1. 2023年度業績ハイライト	33
I - 5. 業績推移	8	VI - 2. 業績推移	34
II. 事業内容	10	VI - 3. 長期業績推移	35
II - 1. 輸送事業	11	VII. 当社株式について	36
II - 2. 倉庫事業	12	VII- 1. 株価推移	37
II - 3. 事業エリア	13	VII- 2. 株主還元	39
III. 物流危機（2024年問題）	14	VII- 3. 株主優待	40
IV. 遠州トラックの強み	16		
IV - 1. 遠州トラックの強み	17	将来情報に関するご注意	
IV - 2. 戦略商品	20	本資料で記述しております業績予想並びに将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確実要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離することもありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。	2

I. 会社概要

I - 1. 会社概要

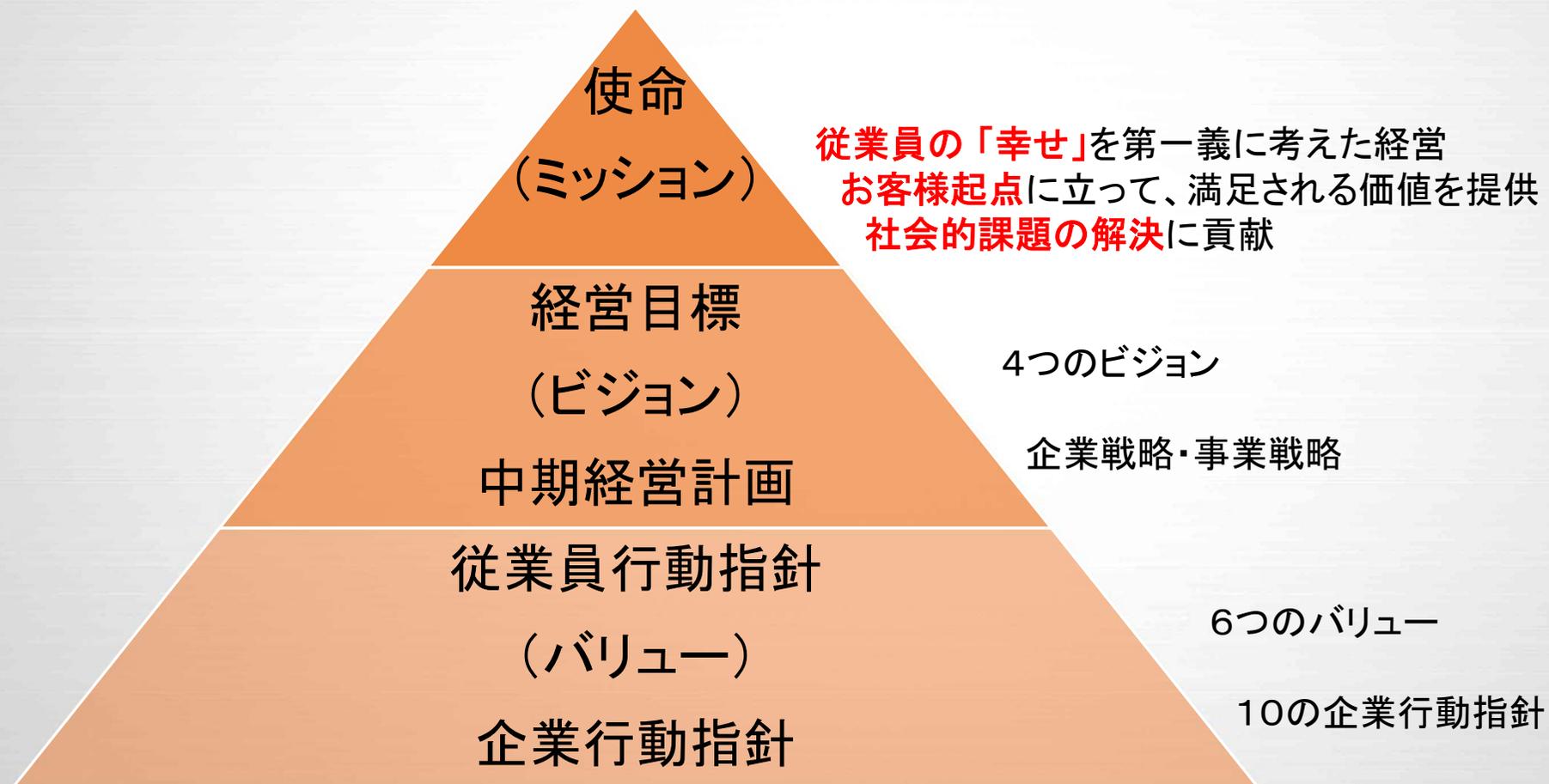


商号	遠州トラック株式会社
代表取締役会長	澤田 邦彦
代表取締役社長	金原 秀樹
本社	静岡県袋井市木原22番地の1
設立日	1965年（昭和40年）8月16日
資本金	12億8,430万円
従業員数	連結1,337名（2024年3月31日現在、嘱託およびパートタイマーを除く）
事業内容	運送業・倉庫業他
株主構成	株式会社住友倉庫60%他
上場証券取引所	東証スタンダード（証券コード：9057）
単元株	100株

I - 2. 会社沿革

1965年（昭和40年）	遠州トラック株式会社を設立、貨物自動車運送事業を開始
1979年（昭和54年）	倉庫業認可取得、倉庫事業を開始
1982年（昭和57年）	株式会社藤友物流サービス（現 連結子会社）を設立 自動車運送取扱事業登録、運送取扱業務を開始
2002年（平成14年）	遠州トラック関西株式会社の株式100%を取得（現 連結子会社）
2004年（平成16年）	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2006年（平成18年）	株式会社住友倉庫が当社株式を取得
2018年（平成30年）	インターネット通販の宅配業務に参入 中継物流拠点「コネクトエリア浜松」を開設
2020年（令和 2年）	小笠運送株式会社の株式100%を取得（現 連結子会社）
2022年（令和 4年）	東京証券取引所のスタンダード市場に移行
2023年（令和 5年）	静岡県袋井市木原22番地の1に本社を移転

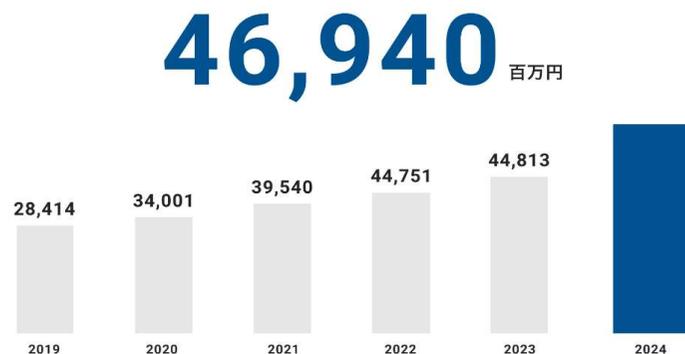
I - 3. 経営理念 (ミッション・ビジョン・バリュー)



I - 4. データでみる遠州トラック

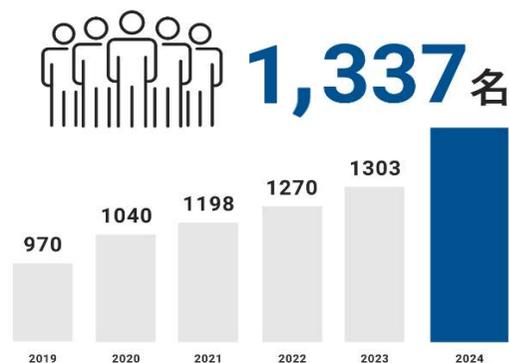
売上の推移

単位100万円



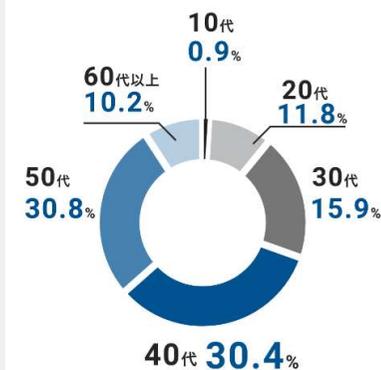
46,940 百万円

従業員の推移



1,337 名

年齢構成比



女性比率



新卒、中途割合



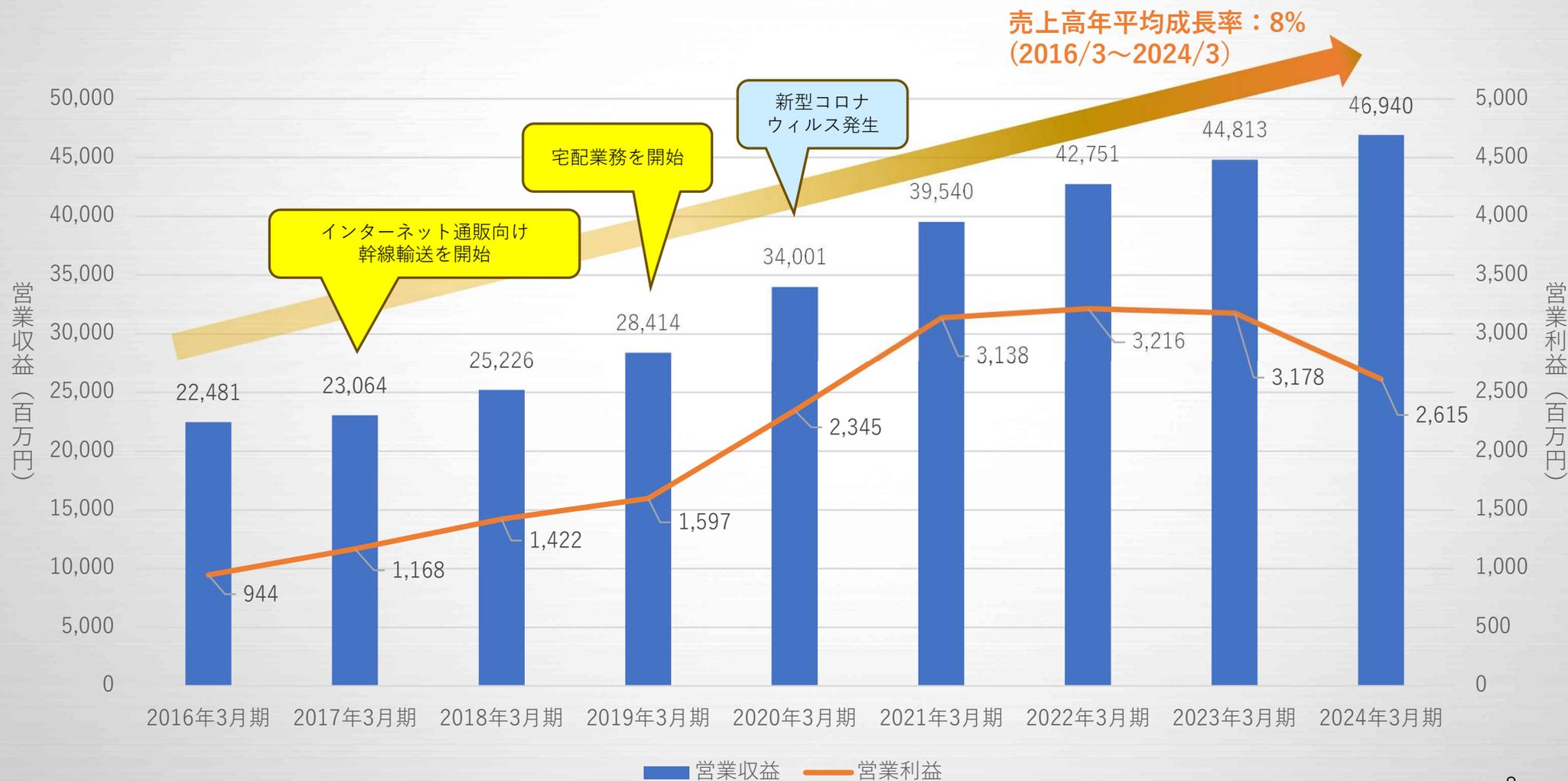
取引先企業数



車両台数・倉庫数

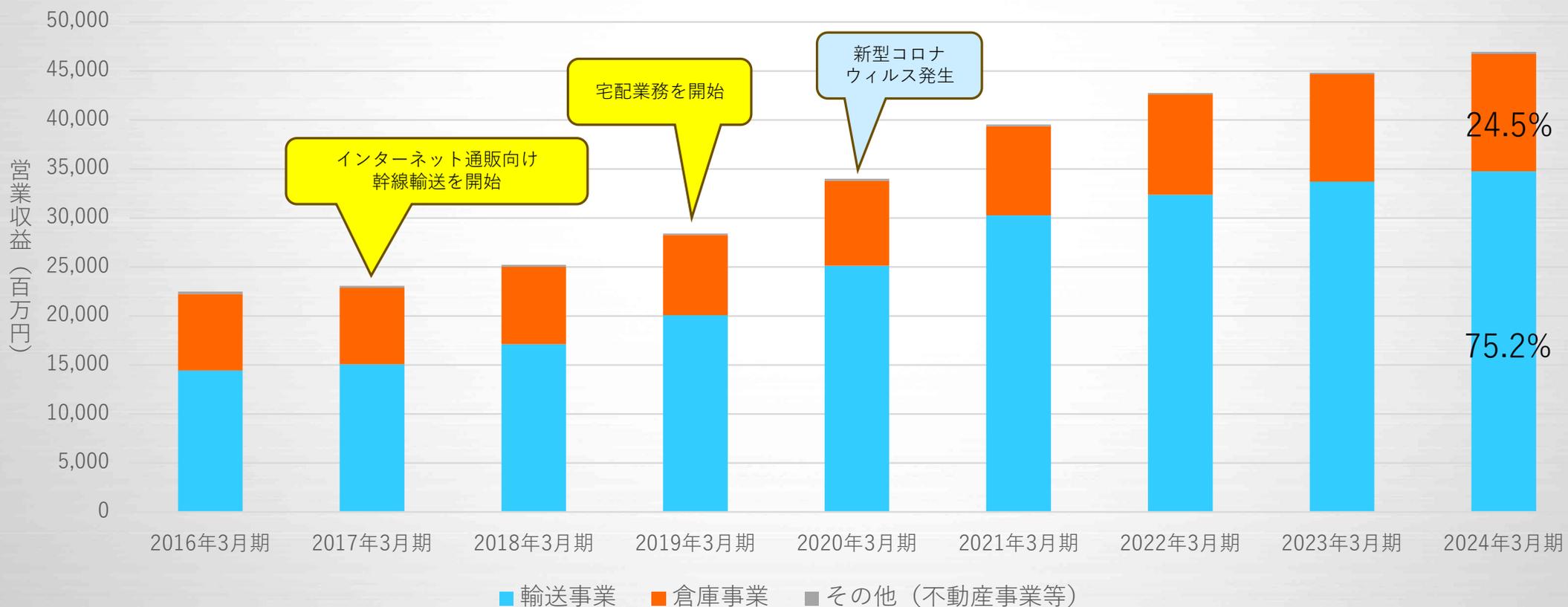


I - 5. 業績推移



I - 5. 業績推移

セグメント別営業収益



Ⅱ. 事業内容

II - 1. 輸送事業

自社車両を520台以上保有し、豊富な車両ラインナップで、多様化するニーズに柔軟に対応。



セミトレーラ ウイング



増トン 低床ウイング



4トン ウイング



2トン ウイング



引越センター仕様



アクタス様仕様



株式会社カインズ様仕様



横浜ゴム株式会社様仕様

Ⅱ - 2. 倉庫事業

多種多様な物流倉庫のラインナップで、多様なニーズに対応。

自動化・無人化システムを積極的に導入し、物流センターを効率的に運営。



袋井ロジスティクスセットセンター



都田第2倉庫



掛川西郷倉庫



厚木要冷センター



細江定温危険物倉庫



無人搬送ロボット



自動仕分けロボット



仕分けソーター

II - 3. 事業エリア

本社のある静岡県西部地区を中心に、27の物流拠点を展開。提携協力会社の車輛や施設を加えて、国内のほぼすべてのエリアをカバー。



自社営業拠点



関係会社および
協力会社主要拠点

Ⅲ. 物流危機 (2024年問題)

Ⅲ . 物流危機（2024年問題）



IV. 遠州トラックの強み

IV - 1. 遠州トラックの強み

(1) 関東-関西間に多数の物流拠点を所有



IV - 1. 遠州トラックの強み

(2) お客様のニーズに合わせ、協力会社と提携しながら拠点を新設し、

最適な物流サービスを提供

当社グループの体制の強み

- ・車両 520台以上
- ・全国 27拠点
- ・配車センター配置
(24時間体制・集中管理)
- ・中継拠点の設置
- ・ドライバー教育の充実
- ・自社整備体制



顧客の需要

- ・物量変動に対する柔軟な対応
- ・イレギュラーに対する迅速な対応
 - ・安心安全な輸送
 - ・最適な物流提案

協力会社と提携して

- ・日本全国に約400社
- ・日本全国への配送網
- ・ドライバー教育の充実



IV - 1. 遠州トラックの強み

(3) 先端技術の積極的な導入により、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進、物流サービスのイノベーションに挑戦。

最新技術の導入



効率化・省人化

AI、IoT、RPAの活用



生産性向上

自動配車システムを
全社展開



全社最適で効率的な
配車を実現

IV - 2. 戦略商品

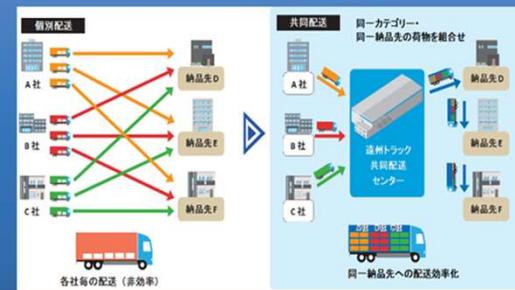
中継輸送



EC物流



共同配送



調達物流



物流拠点



協力会社ネットワーク



IV - 2. 戦略商品（中継輸送）

中継輸送  つなく つながる 乗りかえる!!
日本の真ん中で e-change!!
e-change

 遠州トラック

0:00:06

0:06:54

遠州トラックe-change案内



IV - 2. 戦略商品

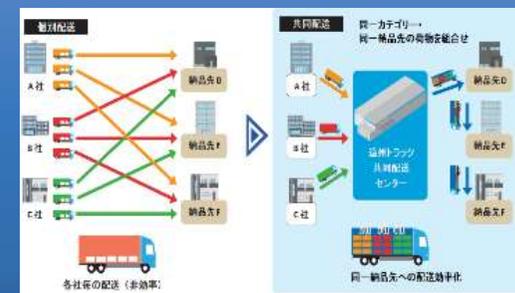
中継輸送



EC物流



共同配送



調達物流



物流拠点



協力会社ネットワーク



IV - 2. 戦略商品

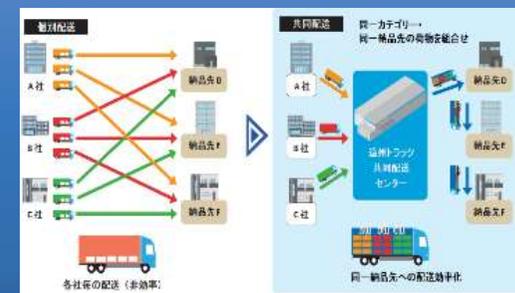
中継輸送



EC物流



共同配送



調達物流



物流拠点



協力会社ネットワーク



IV - 2. 戦略商品

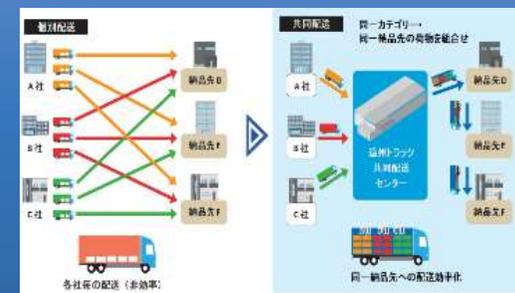
中継輸送



EC物流



共同配送



調達物流



物流拠点



協力会社ネットワーク



V. 中期経営計画

企業戦略

1 従業員のエンゲージメントを向上させる

2 戦略商品を核に事業領域を拡大する

3 物流サービスのイノベーションに挑戦する

4 社会的課題への取組みを進める

主な事業戦略

1

新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

2

戦略の推進のための投資を行う

3

人的資本価値を高める投資を行う

4

コンプライアンスを遵守し、コーポレートガバナンスの強化を進める

5

地球にやさしい物流に取り組む

V - 2. 中期経営計画(定量目標)

数値目標および事業投資額(連結)

	2025年度 (計画最終年度)
営業収益	52,200百万円
営業利益	3,650百万円
事業投資額 (期間累計額)	9,000百万円

ROE(自己資本利益率)は8%以上を目指す

配当性向は30%以上を目指す

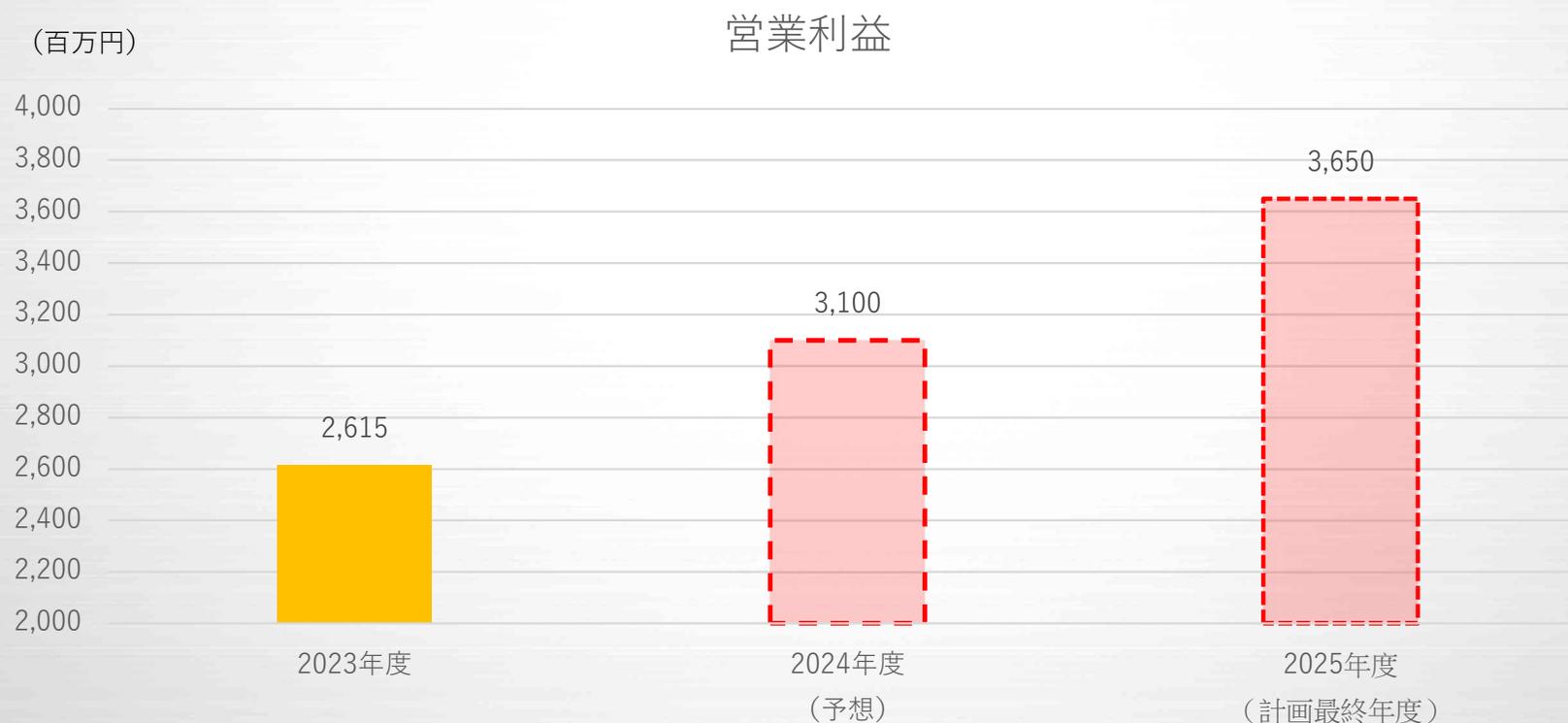
V - 2. 中期経営計画(定量目標)の進捗①

営業収益は年5%以上の成長を継続し、計画最終年度に522億円の達成を目指す



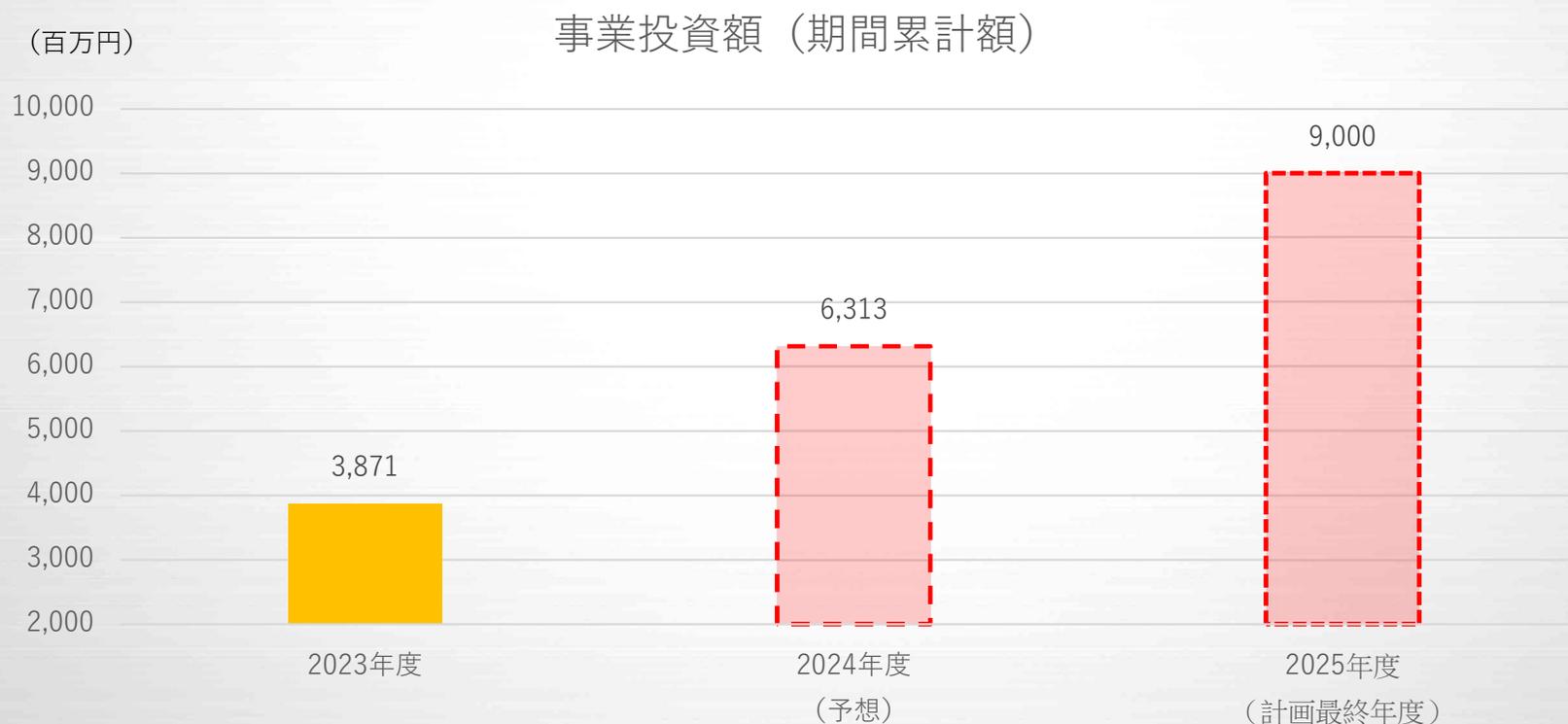
V - 2. 中期経営計画(定量目標)の進捗②

営業利益は価格転嫁と効率化を進め、計画最終年度に36億50百万円の達成を目指す



V - 2. 中期経営計画(定量目標)の進捗③

先端技術の積極的な導入により、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、業務の効率化と省人化を進める



VI. 業績の概要

VI - 1. 2023年度業績ハイライト



(単位：百万円)

連結	2023年3月期		2024年3月期		増減	
	金額	収益比	金額	収益比	金額	比率
営業収益	44,813	100%	46,940	100%	2,126	4.7%
営業利益	3,178	7.1%	2,615	5.6%	△563	△17.7%
経常利益	3,241	7.2%	2,678	5.7%	△563	△17.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,284	5.1%	2,045	4.4%	△238	△10.4%
1株当たり当期純利益 (円)	306.08	-	274.00	-	△32.08	-
1株当たり年間配当金 (円)	94.00	-	94.00	-	-	-

VI - 2. 業績推移



(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 (A)	2024年度 予想 (B)	増減額 (B-A)
営業収益	34,001	39,540	42,751	44,813	46,940	50,000	3,059
営業利益	2,345	3,138	3,216	3,178	2,615	3,100	484
経常利益	2,335	3,184	3,299	3,241	2,678	3,100	421
親会社株主に帰 属する当期純利 益	1,587	2,261	2,342	2,284	2,045	2,100	54

VI - 3. 長期業績推移

営業収益・営業利益の推移（百万円）

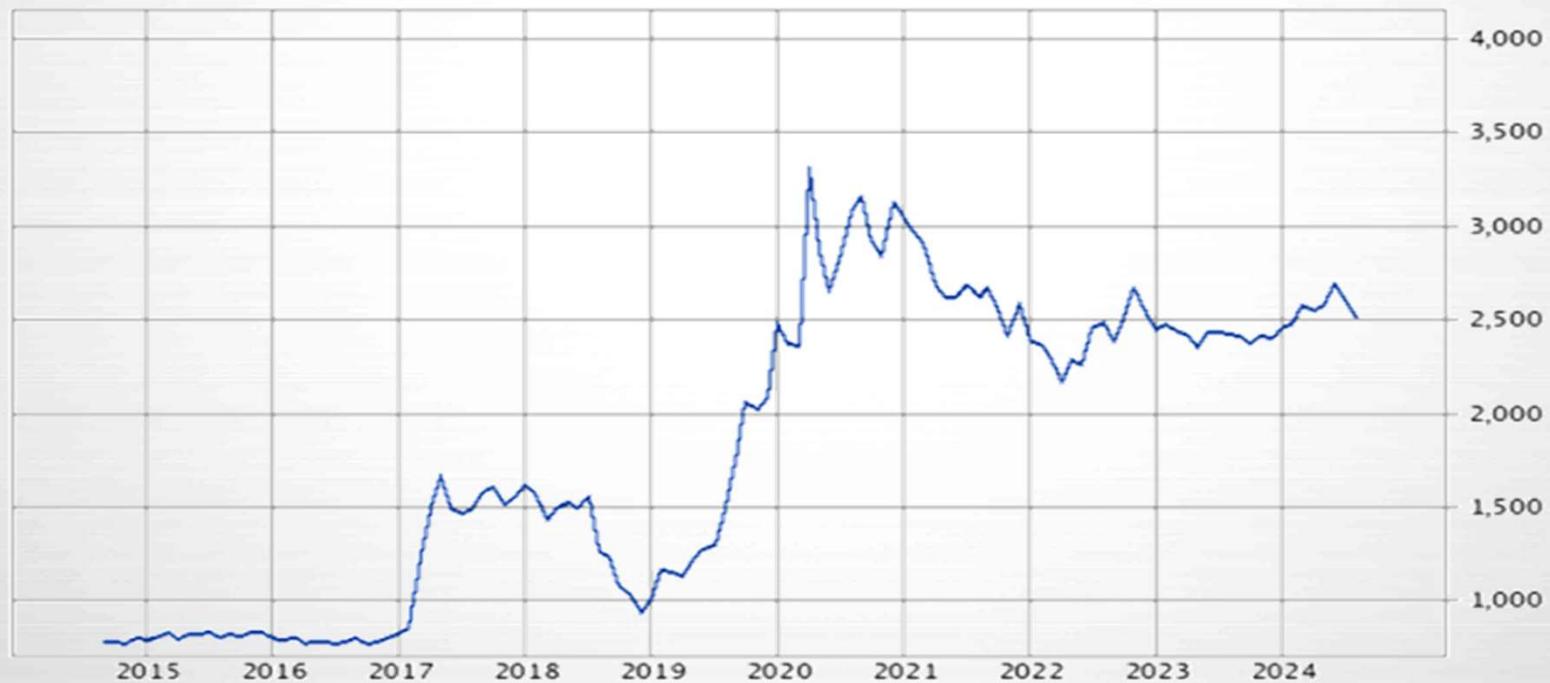


VII. 当社株式について

Ⅶ- 1. 株価推移

株価推移(2015年～2024年) 月初株価

■ 遠州トラック(9057)



(c)Quants Research Inc.

Ⅶ- 1. 株価推移

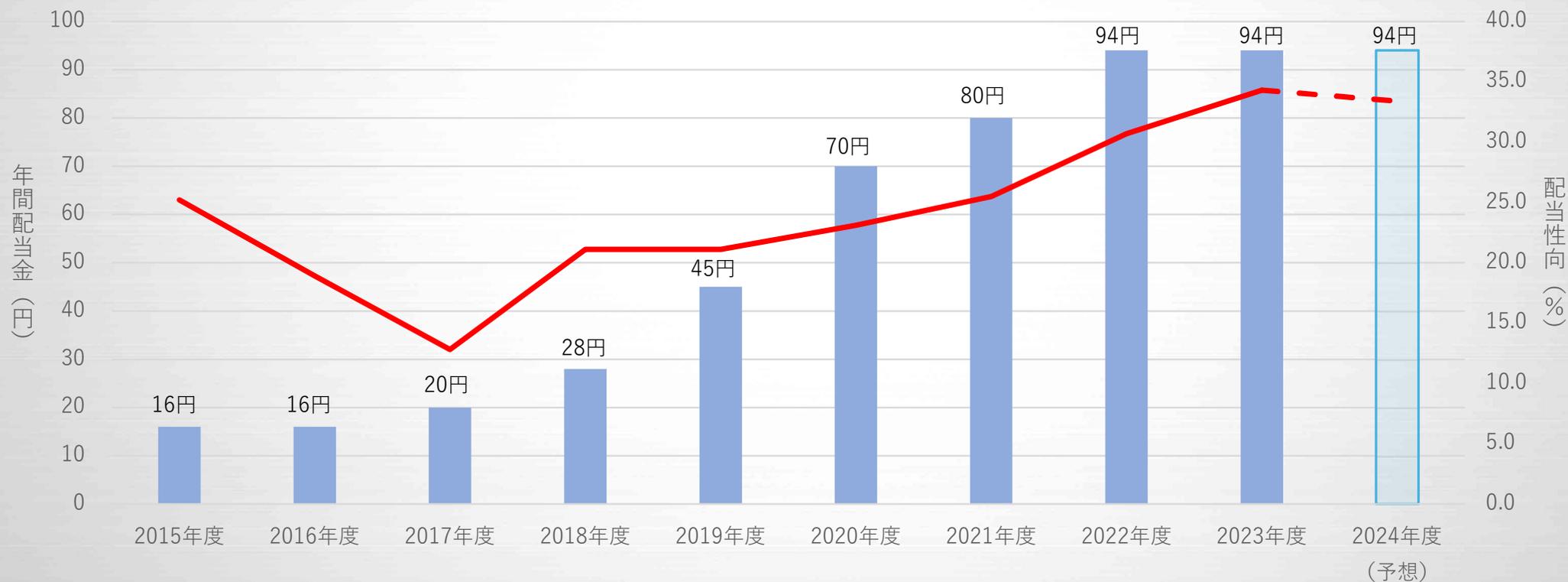
株価推移(2015年～2024年) 日経平均株価との比較

■ 遠州トラック(9057)



VII- 2. 株主還元

年間配当金・配当性向の推移（円・％）



配当性向は30%以上を目指す

■ 年間配当金 — 配当性向

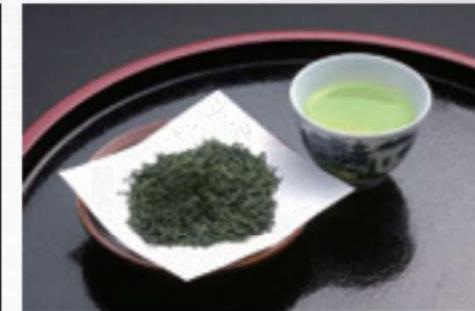
Ⅶ- 3. 株主優待

毎年3月31日現在当社株式をご所有の株主様に対し、優待品を贈呈いたしております。本年は下記の基準により、いずれかおひとつの優待品をお選びいただけます。ご指定のない場合は、クオカードとさせていただきます。

株式数	優待品	
500～999株	・クオカード (2,000円分)	
1,000～1,999株	・クオカード (4,000円分) ・クラウンメロン2個	・静岡産煎茶2缶 ・治郎柿1箱 (15個)
2,000～4,999株	・クオカード (6,000円分) ・クラウンメロン3個 ・ふくろい遠州の花火入場券2枚	・静岡産上煎茶2缶 ・治郎柿2箱 (30個)
5,000株以上	・クオカード (10,000円分) ・クラウンメロン4個 ・ふくろい遠州の花火入場券4枚	・静岡産特上煎茶2缶 ・治郎柿3箱 (45個)



ふくろい遠州の花火



静岡産煎茶



クラウンメロン



< IRに関する連絡先 >

遠州トラック株式会社 総務部総務課

〒437-0046 静岡県袋井市木原22-1

TEL : 0538-42-1111 FAX : 0538-42-1114

MAIL : ir_box@enshu-truck.co.jp

Web : <https://www.enshu-truck.co.jp/>

(注) 当資料に記載されている内容は、当社が判断した種々の前提および仮定に基づいたものであり、記載された将来の計画・目標数値、施策の実行を確約または保証するものではありません。実際の業績は、今後の事業環境の変化等様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご参考資料

遠州トラック

中期経営計画

2023-2025



企業戦略

1 従業員のエンゲージメントを向上させる

2 戦略商品を核に事業領域を拡大する

3 物流サービスのイノベーションに挑戦する

4 社会的課題への取組みを進める

企業戦略 ① 従業員のエンゲージメントを向上させる



従業員が仕事に対する誇りとやりがいをもって働ける
安全な労働環境をつくり、従業員のエンゲージメントを
向上させる

働きがい



高齢化

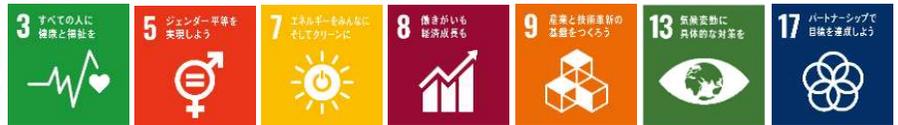


労働環境



多様化





戦略商品を核に関東・関西間の物流サービスを拡充して、事業領域を拡大する

拡大に際しては、安全品質を向上させながら、当社車両と乗務員、作業員で運営する自社輸送体制を堅持し、お客様のニーズに柔軟に対応する能力を確保します。

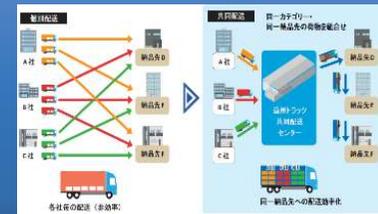
中継輸送



EC物流



共同配送



調達物流



物流拠点



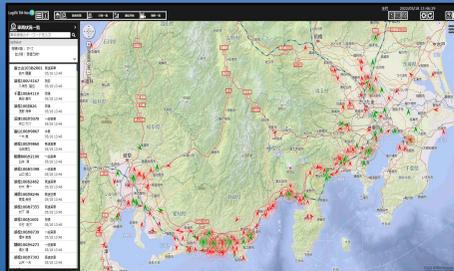
協力会社ネットワーク





先端技術の積極的な導入により、
DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、
未来に向けた物流サービスのイノベーションに挑戦する

データとデジタル技術を活用



業務の効率化と省人化



自動配車システム全社展開



企業戦略 ④ 社会的課題への取組みを進める



法令を遵守し、お客様と共同して地球環境にやさしい物流機器の導入(物流の改善)を進めます。また、地域の交通安全づくりや行事への参画を通じて社会の持続的な成長に貢献します。

モーダルシフト



車両の電動化



CO2削減

CASBEE評価の取得(※)



地元花火大会のボランティア



交通安全教室



社会貢献活動



(※)CASBEEとは
一般財団法人建築環境・省エネルギー機構が開発した建築物の環境性能を総合的に評価する制度のことです。

事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

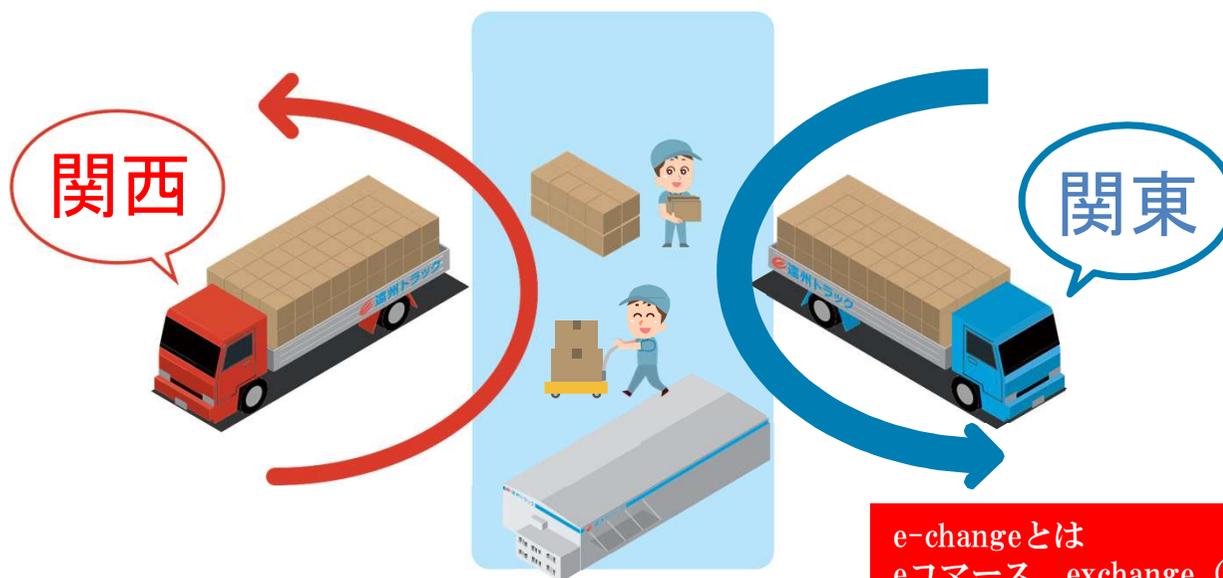
1. -1 中継輸送サービス(e-change)を推進する



中継輸送  つなく つながる 乗りかえる!!
日本の真ん中で e-change!!

CA
コネクトエリア
浜松

乗務員が日帰りできる
関東・関西間の物流サービス



お客様の
長距離輸送の
集車難解消

ドライバーの
負担の軽減

ホワイト
物流を推進

2024年問題
に対応

e-changeとは
eコマース、exchange（交換）と当社名の頭文字から名付けた
中継輸送を表す商標です。

事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

1. -2 中継拠点を活用して幹線輸送とエリア配送を繋げたネットワークを拡充する



当社の拠点が充実している静岡県、関東圏、中京圏、関西圏を幹線輸送で繋ぎ、共同配送ネットワークをさらに拡充する

事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

2. EC(eコマース:インターネット上の電子商取引) 物流を拡充する



東海道を中心とする幹線輸送



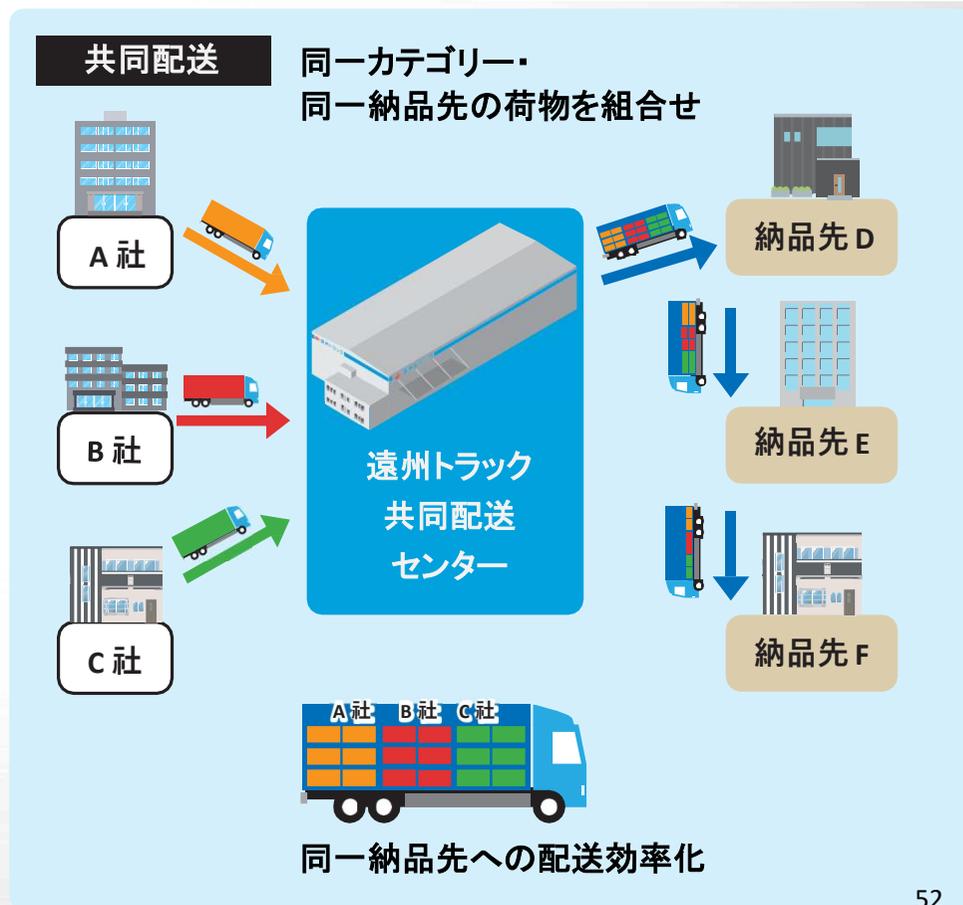
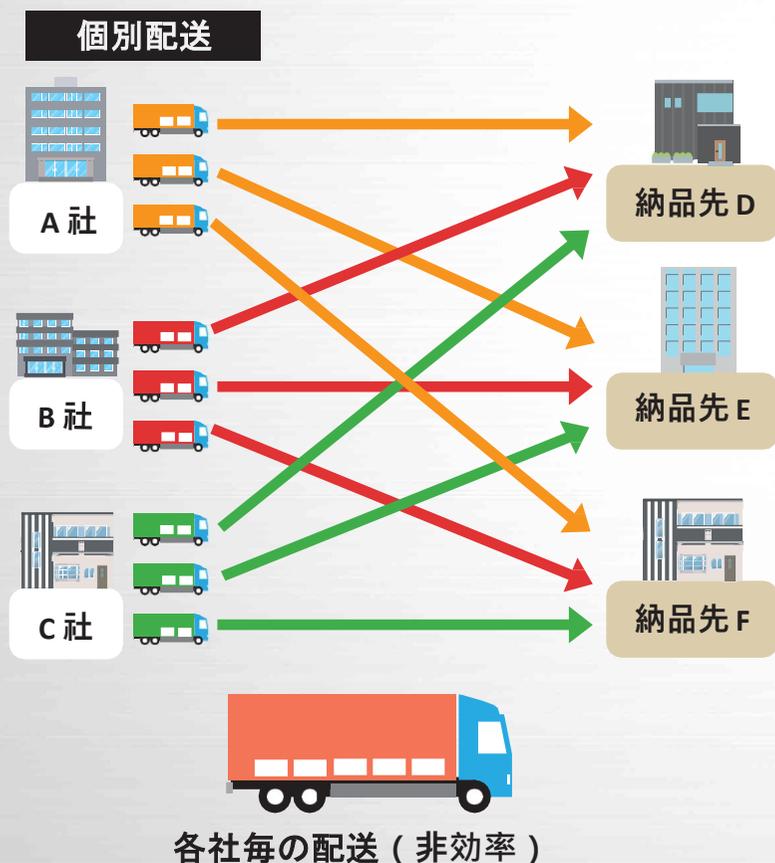
ラストワンマイル輸送



東海エリアでのEC物流ネットワークを活用して
新たなEC顧客の個配業務を開拓する

事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

3. 共同配送網を拡充する



事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

4. 協力会社ネットワークを拡充する



事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

5. 調達物流を進化させる



当社拠点を原料・資材を集積させる場に加えて、セット組み機能や多頻度適時輸送など顧客に最適な納品形態を実現させる場として進化させる

事業戦略1 新しい物流サービスに挑戦し、事業領域を拡大する

6. 最適な物流サービスの提供に向けて 物流拠点を新設する



当社グループの体制の強み

- ・車両 520台以上
- ・全国 27拠点
- ・配車センター配置
(24時間体制・集中管理)
- ・中継拠点の設置
- ・ドライバー教育の充実
- ・自社整備体制



顧客の需要

- ・物量変動に対する柔軟な対応
- ・イレギュラーに対する迅速な対応
- ・安心安全な輸送
- ・最適な物流提案

協力会社と提携して

- ・日本全国に約400社
- ・日本全国への配送網
- ・ドライバー教育の充実

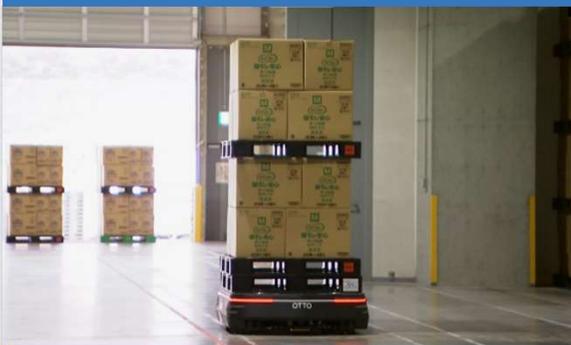


事業戦略2 事業戦略推進のための投資を行う

1. DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、 物流サービスのイノベーションに挑戦する



最新技術の導入



効率化・省人化

AI、IoT、RPAの活用



生産性向上

自動配車システムを 全社展開



全社最適で効率的な
配車を実現

事業戦略3 人的資本価値を高める投資を行う

1. 人材が事業の価値を高める人的資本であると捉えて投資する



従業員の処遇と
職場環境の改善



多様な人材の
募集と確保



従業員の
健康保持・増進



従業員のエンゲージメントを高め、組織の活性化や生産性の向上につなげる

事業戦略4 コンプライアンスを遵守し、コーポレートガバナンスの強化を進める

- 2024年問題に法令遵守で対応する
- コーポレートガバナンスコードに対応したガバナンス強化を進める



事業戦略5 地球にやさしい物流に取り組む

- 中継輸送、共同配送、調達物流の最適化、モーダルシフト等の提案により、社会的課題であるCO2削減に積極的に取り組む



数値目標および事業投資額(連結)

数値目標および事業投資額(連結)

	2025年度(計画最終年度)
営業収益	52,200 百万円
営業利益	3,650 百万円
事業投資額(期間累計額)	9,000 百万円

ROE(自己資本利益率)は8%以上を目指す

配当性向は30%以上を目指す

(注) 当資料に記載されている内容は、当社が判断した種々の前提および仮定に基づいたものであり、記載された将来の計画・目標数値、施策の実行を確約または保証するものではありません。実際の業績は、今後の事業環境の変化等様々な要因により異なる結果となる可能性があります。